

種名	<u>シ オ ヤ ト ン ボ</u> <u>Orthetrum japonicum japonicum</u> 
分類	昆虫綱トンボ目トンボ科
俗称	
形態的な特徴	体長 42mm(腹長 25～29mm、後翅長 28～33mm)ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさ。シオカラトンボをずんぐりとさせた感じの小型のトンボである。未成熟個体は雌雄とも黄褐色の地に黒色斑紋があるが、雄は成熟すると黒化して体に蒼白色の粉が厚く吹き出る。翅の基部に淡い橙色斑があるのが特徴。幼虫は、汚褐色から赤褐色、暗褐色をした体長 17～20mm(頭幅 5mm)ほどのヤゴである。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布し、北海道では産地がやや限られている。離島では奥尻島、佐渡島、八丈島、淡路島、瀬戸内の家島諸島、隠岐、杣島、天草諸島、種子島などに分布する。
繁殖行動	成虫は春早い時期から現れ、暖かい地方では3月から見られるが、出現期間は比較的短く6月頃までである。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や葉の裏、杭などに定位して羽化する。羽化後の新成虫は夜明けを待って飛び立ち、羽化水域をかなり離れた所まで移動することもある。成熟すると水辺に戻り、雄は挺水植物や岸の地面にぴったりと体をくっつけて止まり縄張りを形成する。交尾は、近くの地面や草などに静止しておこなう。交尾後の雌は単独で、植物の生い茂る浅い水域の水面に連続打水産卵する。
生息場所	おもに平地から低山地の草丈の低い挺水植物が茂った湿地や休耕田、水田などに生息する。幼虫は畦間の緩やかな流れや水田の中の流水部などにすみ、柔らかい泥の中に浅くもぐって生活している。本種は、谷地の放棄水田など丈の低い草本が茂る湿地を好むが、このような場所は開発や整備などにより消失したり、管理されず放棄されて乾燥化する傾向が強く、本種も数を減らしている。
食性	
生息環境への配慮事項	本種が好む放棄水田や水はけの悪い湿田や、谷地田の上流にある湿地などは、放置されたままではいずれは乾燥してしまう。しかし、ビオトープとして位置づけること等によって、このような生息空間を維持・管理することが重要である。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	